

「斜紋夜盗 (ハスモンヨトウ) (1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

本校の郊外園の作物(主としてサツマイモ、ダイコン、ジャガイモ)は、すべて無農薬で栽培している。さまざまな虫たちにとっては、恐らく天国のような場所にちがいない。この日も、バッタ類、シロチョウ類、ヒョウモンチョウ類、ハナムグリ類の幼虫など、子どもたちはさまざまなものを見つけて、捕まえていた。



サツマイモの葉も、ことごとく食い荒らされている。これだけの葉の面積を餌にしているのだから、相当数いるにちがいない。ところが、葉の上には、蝶や蛾の幼虫らしき姿は1匹も見られない。



しかしこれは、まさしく何かの幼虫が食い荒らした葉である。葉の裏もさがしたが、やはり1匹もいない。葉の上にはいないのなら、あとは土の中しか考えられな

い。蛾の仲間には、幼虫やさなぎが、土中で生活する種類が結構多いのだ。



サツマイモの根元の土を掘ってみると、さっそく幼虫が現れた。掘れば掘るほど、売るほど出てくる。これは、「ハスモンヨトウ」という蛾の幼虫である。



ハスモンヨトウ *Spodoptera litura* (ヤガ科)
4 齢幼虫 体長約 8cm 撮影 ; C.Tanaka

ハスモンヨトウは漢字では「斜紋夜盗」と書く。カタカナでわずか7文字の中に、この昆虫の特徴を、非常によく表したすばらしい和名だと思う。